

右京区基本計画策定委員会
第3回 地域活動と安心安全のまちづくり部会 摘録

日 時： 平成21年9月9日（水）
午後1時30分～午後4時
場 所： 右京区役所5階大会議室1
出席者： 永橋部会長 ・ 高岡委員
高屋委員 ・ 中川委員
中沼委員 ・ 林委員
松井委員 ・ 宮崎委員
新妻委員

オブザーバー
寺本演夫氏
(社会福祉法人嵐山寮 理事長)

地域活動の活性化・人材育成・担い手／地域住民相互の関係づくり

- 人と人のつながりづくり、今後の新しいリーダーづくりが重要であることは『豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会』と『魅力ある都市環境のまちづくり部会』からも指摘されている。施設などのハードだけではなく、それを動かしていく人材が必要になる。とくに新住民のなかでマンション居住者や、小学校の若いお父さん、お母さんたちをどうひきつけていくのが非常に重要だ。子どもの見守りや防犯、交通安全の取組が大人同士をつなぎ、小学校の保護者がこれからのリーダーにもなるという意味では、小学校を拠点にしたまち育て、人育てが課題だ。
- 今から35年前は自治連合会も昔から住んでいる人でなければよそ者扱いで、入り込むまでが大変だった。今、地域づくりをみんなで進める土壌ができてきたのは大変嬉しい。ただ、人は多いが人材が少ないため、右京社協では5年計画で人材育成に力を入れている。
- 社協では、人材育成の一環で新しく入られた人を対象に社協の活動内容を知ってもらうための勉強会を年に約3回行っている。若い人も結構出席している。
- 若い人が関わりやすい状況にするには、きっかけをつくるのが大事だ。きっかけがなければ第一歩が踏み出せない。
- 地域の自立支援センターや老人施設でのボランティア活動のため、ボランティア募集の回覧を出すのが、1～2名程度しか反応がない。ただ、話を聞くと地域で何かできることはないかと思っている人も多いようだ。待っているのではなく、こちらから進んで声掛けをして探すことも大切だと感じている。
- 町内から選ばれる推進員の方は、毎年違う人が来ることによって活躍してくれそうな人が見つかって声を掛けることもできる。役員だけのレベルでやることはマンネリ化にもつながる。逆に地域から初めて活動に関わるような人も巻き込み、町内の何もわからない人や住民を巻き込んだような、地域での活動内容や、参加したいと興味をもってもらえる事業を計画していくべきではないかという意見も出ている。
- 梅津学区のまちづくり委員会は、若いお父さんたちが頑張っておられて、われわれの生ゴミからの堆肥づくりにも参加していただき、祇園祭のゴミ回収の手伝いに来てくださるなど、熱心に活動されている。
- 最近はボランティアをしたい人は増えているので、ある程度そういう人を集めたら経験を積ん

でもらい、その人たちを指導者にしてまた次の人を育てるといった段取りづくりが必要。

- 人づくりには人材の育成と、やる人を束ねてコーディネートする人をつくることと、両方なければならぬ。活動してくれそうな人に声掛けをする人もいる。単に人づくりということではなく、さまざまな人の力をパワーアップしていくような役割をする人が必要だ。
- 子育て世代のお母さんたちはなかなか参加しにくいのが、一度PTA役員などをして地区の祭り等、準備する側に携わると苦勞がわかり、声を掛けられれば手伝いに行こうという気も起きやすい。ボランティアというより、お手伝いに行くという気が起こればきっかけの一つになるのではないか。
- 今の子育て世代は、経済悪化による負担の増大で、目の前の生活が忙しく地域活動には参加できなくなっているという悪循環が指摘されている。
- 自治連の役員も不足している。ほとんどは1年務めるとすぐ辞めてしまう。1年では活動らしい活動はできない。
- 地域のお祭りなどのように、続いているものを守ることで、次の世代も育ち、地域で人と人とのつながりができていくのではないか。
- 太秦では新しく建ったマンションが自治会に加入して、500人も集まるような大規模な地蔵盆が行われるようになった。地域の底力に改めて感心した。
- 地蔵盆のような、普段やっていることが大切であり、チャンスになる。
- 右京というところは総じて元気な地域だと思っている。
- 地蔵盆も最近は子どもの数が少ないので、大人の親睦会のようになっている。
- 大人の交流も大事だ。

小学校との関わり／PTAと地域のつながりづくり

- 太秦では、中核になる太秦社協執行部の構成団体の一つに小学校がある。事業をする会場としても使い、小学校が公民館のような役割をしている。
- 私も引っ越してきてPTAの役員になったが、地域の間人関係がわかりにくく、長く住んでいる方たちにいろいろ教えてもらうのがいちばんだと感じた。学校が良くなることは地域が良くなっていくことにつながる。地域で民生児童委員として活動し、学校での活動を通じて自治連合会とも結びつきができてくるとお互いに協力できるし、他の地域の活動を手伝うことも可能だ。
- 20～25年ほど前に比べて、現在は学校と地域との連携は非常によくなってきている。
- 小学校との関わりとしては、PTA役員と一緒に子どもたちに対する行事に取り組んでいる。そのなかで熱心な人で余裕のある、いい人材をピックアップする。あるいは町内の自治会役員から社協の推進員となった方のなかでしっかりやってくれる人には若い人にも声を掛けている。PTAの活動は地域に関わる最初の一步だと考えている。
- 学校運営協議会は、PTAのOBの方に委員長をしてもらい、地域の役員さん、地域でいろいろ関わっている人たちが入って運営されている。小学校は地域の人にいちばん見てもらえる場なので、学校と地域がうまくつながって、まとまっていくのに非常にいい関係ができています。
- 安井学区の自主防災会では、避難訓練で逃げる方法を訓練するだけでなく、例えば夜中に避難してきた人たちが一挙に押しかけた場合、その対応をどうするのかといった受け入れ側の訓練を小学校の体育館等を使って行っている。自治会の役員は、小学校や中学校のPTAなど各種団体の役員になってもらっている。町内会の会長だと毎年替わる場合がほとんどというのがその理由だが、やはり2～3年やってこそ積み重ねの良さがあると思う。また町内会のなかで

若い人とお年寄りの年齢格差がかなり開いてきているのは問題だと思っている。

- 学校は地域の拠点であり、小学校はみんなが集まれる場として大事にしたい。

地域の防犯・防災・交通安全

- 消防団員のなり手が少ない、高齢化で定員に満たないのは問題だ。
- 学区防災について、あらゆる角度からできるだけ早い時期にマニュアルを作成しないと大変な事態になるのではないかと。災害が起きれば行政の力はもちろん必要だが、最終的には学区住民の力がなければ乗り切れない。
- マンション、とくに一人暮らしの人々の関わりがない。孤立・孤独が増えていくのではないかと。
- 一戸建てなら老人福祉委員や民生委員も関わりやすいが、マンションのオートロックでは入れない。防犯にはいいかもしれないが、よし悪しだ。
- 高齢者になったときの入所施設が不足している。最後まで頑張るよう在宅への援助は必要だが施設も必要。
- 治安面で考えると子どもの見守り活動がどうなっているのか、できるだけ早く安心安全な世の中になることを望んでいる。

高齢者も暮らしやすい生活環境づくり

- 高齢者が地域で自立して住める地域づくり、社会づくりを進めていくことが大きな課題となる。
- 数年前まで京都で100歳以上の老人を訪ねて回っていたが、長生きで元気な方はみんな家庭環境と地域環境の両方とも恵まれていることに気づいた。
- 独居老人になにかあった時に御近所の人から通報してもらおう緊急通報システムはどうなっているのか。
- 自分から御近所の人に申し込む形になっている。
- やはり御近所の人に好かれるような年寄りにならなければ、頼みに行ったら断られたという例がある。
- 日頃、お互いに楽しい経験をどれだけしておくかで仲良くなれるし、助け合える関係になる。

10年後の不安

- 生きがいのある生活ができるかどうか不安だ。今はいろいろ活動できているが、10年後となると肉体的に動けなくなる可能性もある。
- 私の学区ではマンション建築が進み、戸建ての家が減ってきている。人口流入により、かえって学区基盤に不安を感じる。少子化で地域の催しが縮小化するといった問題も考えられる。
- 高齢化で、学区が継続して次の世代にスムーズにバトンタッチできるのか、ボランティアの人数が確保できるのかといったマンパワー、担い手の問題もある。
- 右京区の小学校区の減少、都心のように空洞化が進行するのではないかと。